

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	Web制作 I	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	9単位
授業方法	演習		

科目の内容
HTMLとCSSを基礎から学び、コーディングスキルを身に付ける。 同時に、レスポンシブWebデザインなど時代に適応した技術を積極的に取り入れる。
具体的な達成目標
・HTMLとCSSを理解し、Webページの制作ができるようになる。 ・デザインカンパをもとにWebページのコーディングを実現できるようになる。 ・レスポンシブWebデザインを理解し、表示デバイスごとに最適な表示が行えるようになる。 ・Webサーバへのアップロードなどが行えるようになる。
授業計画
1．PC基本操作、初期設定 2．Web基礎、Webデザイントレンド 3．HTML/CSS基礎 4．Web制作演習①：シンプルなWebページ制作 5．マルチカラムレイアウト・フレックスボックス理解 6．Web制作演習②：マルチカラムレイアウトのWebページ制作 7．マルチデバイス対応・レスポンシブWebデザイン 8．Web制作演習③：マルチデバイス対応のWebページ制作 9．CSS応用 10．パーツ別レイアウト 11．Web制作演習④：シングルページのサイト制作（シンプルなポートフォリオサイト） 12．Webサーバの申し込みとアップロード／Webサイト運用 13．総合演習：ECサイト制作 14．修了制作：Webデザインコンペ制作 15．特別授業：就職活動用ポートフォリオサイト制作
授業の進め方
1．テキストをベースにHTMLやCSSを理解する。 2．指定のデザインカンパをもとにしたWebページ制作演習で理解を深める。 3．レスポンシブWebデザインや様々な表現方法を身につける。 4．自作のデザインカンパをもとにWebページを構築する。（Webデザインコンペ、ポートフォリオサイト）
成績評価方法および水準
筆記試験と課題提出、および出席などの平常点で評価する。 ※内訳は、筆記試験（60%）、課題（30%）、平常点（10%）
履修にあたっての留意点
HTMLやCSSの理解、CSSレイアウト、レスポンシブWebデザインを確実に身に付けるため、復習を兼ねた自主制作を習慣化すること。また、定期的に与えられる課題を期限厳守で提出できるよう、授業時間外での制作が必須となる。
実務経験がある教員による授業科目
Web制作会社にてフロントエンドエンジニアとして従事。CMSを活用したECサイトおよびコーポレートサイトの構築、業務フローに合わせたシステム開発、保守業務を担当。現在はフリーランスとして実務を継続しながら、これまでの経験を活かし、基本的なコーディング技術を身に付けるための授業を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	Web制作 I	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	9単位
授業方法	演習		

科目の内容
HTMLとCSSを基礎から学び、コーディングスキルを身に付ける。 同時に、レスポンシブWebデザインなど時代に適応した技術を積極的に取り入れる。
具体的な達成目標
・HTMLとCSSを理解し、Webページの制作ができるようになる。 ・デザインカンパをもとにWebページのコーディングを実現できるようになる。 ・レスポンシブWebデザインを理解し、表示デバイスごとに最適な表示が行えるようになる。 ・Webサーバへのアップロードなどが行えるようになる。
授業計画
1．PC基本操作、初期設定 2．Web基礎、Webデザイントレンド 3．HTML/CSS基礎 4．Web制作演習①：シンプルなWebページ制作 5．マルチカラムレイアウト・フレックスボックス理解 6．Web制作演習②：マルチカラムレイアウトのWebページ制作 7．マルチデバイス対応・レスポンシブWebデザイン 8．Web制作演習③：マルチデバイス対応のWebページ制作 9．CSS応用 10．パーツ別レイアウト 11．Web制作演習④：シングルページのサイト制作（シンプルなポートフォリオサイト） 12．Webサーバの申し込みとアップロード／Webサイト運用 13．総合演習：ECサイト制作 14．修了制作：Webデザインコンペ制作 15．特別授業：就職活動用ポートフォリオサイト制作
授業の進め方
1．テキストをベースにHTMLやCSSを理解する。 2．指定のデザインカンパをもとにしたWebページ制作演習で理解を深める。 3．レスポンシブWebデザインや様々な表現方法を身につける。 4．自作のデザインカンパをもとにWebページを構築する。（Webデザインコンペ、ポートフォリオサイト）
成績評価方法および水準
筆記試験と課題提出、および出席などの平常点で評価する。 ※内訳は、筆記試験（60%）、課題（30%）、平常点（10%）
履修にあたっての留意点
HTMLやCSSの理解、CSSレイアウト、レスポンシブWebデザインを確実に身に付けるため、復習を兼ねた自主制作を習慣化すること。また、定期的に与えられる課題を期限厳守で提出できるよう、授業時間外での制作が必須となる。
実務経験がある教員による授業科目
Web制作会社にてフロントエンドエンジニアとして従事。CMSを活用したECサイトおよびコーポレートサイトの構築、業務フローに合わせたシステム開発、保守業務を担当。現在はフリーランスとして実務を継続しながら、これまでの経験を活かし、基本的なコーディング技術を身に付けるための授業を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	Webリテラシー	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	講義		

科目の内容
Webに関する全般的な知識を身につけることが目標。クライアントとの打ち合わせや制作会議に参加した際に、話の内容が理解できるレベルを目指す。具体的には、レイアウトやデザインからWEBサイトを実現する技術、ワークフローなどWEB制作に関する全ての知識を学ぶ。
具体的な達成目標
- Web制作に関する専門用語や全般的な知識を身に付ける - CG-ARTS協会主催のWebデザイナー検定ベーシックへの合格
授業計画
1. ビットとバイト、情報の単位 2. グラフィックデザインとWebデザイン 3. Webデザインへのアプローチ 4. コンセプトと情報設計 5. デザインと表現手法 レイアウト、タイポグラフィ、グラフィックス、UI 6. Webページを実現する技術 HTMLマークアップ、相対パス、CSS、セレクター、flexbox 7. Webサイトの公開と運用 8. 知的財産権 9. Webデザイナー検定対策 10. グループワーク
授業の進め方
1. テキストに沿って板書多めで授業を進める。 2. 前回までの復習を兼ねて確認テストを行う。 3. 制作現場の話を織り交ぜ具体的に説明する。 4. 検定試験前には模擬試験を行う。
成績評価方法および水準
筆記試験、および出席などの平常点で評価する。 ※内訳は、筆記試験（90%）、出席など（10%）
履修にあたっての留意点
- 毎回、前回の内容から確認テストを行い理解を深める - 可能な限り制作現場でのエピソードを話す
実務経験がある教員による授業科目
1995年よりいち早くWeb制作を始め、本校Webサイトの制作・運営を20年ほど行っている。その経験を活かしWeb制作全般の知識的な授業を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	Webデザイン I	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	5単位
授業方法	演習		

科目の内容
デザインの考え方や基本要素（レイアウト、色彩、書体等）について、教材や実例を用いて学習します。 制作ツールの基本操作を学びながら実際の作業を通じて、一般的なデザインの基礎知識と技術の習得を目指します。
具体的な達成目標
デザイン会社に限らず幅広い分野で求められるデザインの基礎知識と技術の習得を目指します。 一般的なデザイン理論や制作ツールの基本操作を学び、課題や擬似案件を通じて実践的なスキルを身につけます。 制作課題では、技術だけでなく考える力を養い、視覚的に情報を効果的に伝えるための思考力を培います。 こうした学習を通して、実務でも通用する応用力と創造力の向上を目指します。
授業計画
1. デザインとは何かを理解する、見る目を養う（デザイン概論、第一線のプロの紹介、プロが得ている情報リソースの紹介） 2. デザインの基本セオリー(レイアウト、配色、タイポグラフィー) 3. デザイン制作実践入門、制作ツールの操作取得（Photoshop、Illustrator、XD、Figma） 4. デザイン模写1（Webサイト、バナーなど講義用に準備したデザインを参照） 5. デザイン模写2（Webサイト、バナーなど講義用に準備したデザインを参照） 6. デザイン模写3（Webサイト、バナーなど講義用に準備したデザインを参照） 7. 企画・設計・制作プロセス、戦略を学ぶ 8. 実現場を知る（プロの作ったサイトのデザインを解析し、デザイナーの思考、方法論を学ぶ。現役の講師から実務の流れを学ぶ。） 9. 疑似案件 デザイン制作1(実践的な制作スタイルを学ぶ) 10. 疑似案件 デザイン制作2(実践的な制作スタイルを学ぶ) 11. 疑似案件 デザイン制作3(実践的な制作スタイルを学ぶ) ※実制作での学習を基本とし、デザイン模写や疑似案件デザインの最中にも要所で必要に応じて座学を実施予定 ※課題と並行して、Webデザインコンペのデザイン指導も行う
授業の進め方
1) 座学を主としたWebデザインの基礎を理解する。 2) 実習課題を制作ツール（Photoshop、Illustrator、XD、Figma）を用いて実践する。 3) 教科書や講師の準備した作品を模写し、デザインの思考を実践で学ぶ。 4) 伝えるとは何かを考え、学習したことを活かしサイトデザインを設計・計画する。 ※前半はWEBに特化せずデザイン全般とした知識、技術を学習し、後半では課題を通してWEBデザインの実践的なスキルや思考を学習予定。
成績評価方法および水準
・成績の評価は平常点を20%、提出物を80%として評価する。 ・平常点は授業に取り組む態度、制作物と真摯に向き合っているかを問う。 ・提出物は各課題のレギュレーション(想定クライアントの要望)に従い提出期限厳守のこと。
履修にあたっての留意点
・実習中心の授業となるため、積極的な参加と継続的な課題への取り組みが重要です。 ・特別なデザイン経験は不要ですが、基本的なパソコン操作ができることが望ましいです。
実務経験がある教員による授業科目
齊藤 健太 熊本の広告デザイン会社に10年間勤務し、紙媒体のディレクションからデザイン制作まで幅広く担当。新人教育の統括も務め、後進の育成にも携わる。2022年に独立し、デザイン事務所「アンド」を設立。代表として企業運営に携わりながら、デザイン業務や動画の撮影・編集なども手掛けている。 これまでの実務経験を基に、デザインの基礎的な思考法や技術を実践的に指導。業界で培った知識や経験を活かし、現場で通用するスキルや視点を学生に伝えることを目標とする。
広告デザイン会社に9年間勤務し、紙媒体のデザイン制作やディレクション業務を担当。その後、WEBデザイン会社のプロジェクトに1年間参加し、WEBデザインの実務経験を積む。その後、デザイン事務所を設立。WEBデザイン担当として、県内外の大規模なサイトのディレクション、デザイン、ノーコードツールを活用した実装までを一貫して手掛けている。 実務で培ったWEBデザインの知識と経験を基に、現場レベルの知識や応用スキルを指導。実践的な課題を通じて、学生にWEBデザインに必要な思考法と技術を身につけさせることを目標とする。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	デザインワーク	年度	令和8年度(2026年度)
学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		
科目の内容			
Photoshopの機能や操作をマスターし、デザインツールとして使いこなせるようになる。また、近年発展を遂げている画像生成AI（Firefly）を活用することで、時代に適応したデザインスキルを身につける。			
具体的な達成目標			
・ Photoshopの機能やオペレーションの習得 ・ フォトレタッチ技術の習得 ・ Webページで使用するコンテンツの制作スキルの習得 ・ Webデザイン制作スキルの習得 ・ 画像生成AI（Firefly）活用スキルの習得			
授業計画			
1. デジタル画像の基礎知識 2. Photoshop基本操作(1)（色調補正、範囲選択、不要物の除去、トリミング等） 3. 演習①：フォトコラージュ制作 4. Photoshop基本操作(2)（描画モード、フィルター、マスク、ブラシ等） 5. 演習②：バナーデザイン模写 6. 演習③：テーマに基づいたバナー制作 7. Photoshop応用（Firefly活用） 8. 演習④：Fireflyを活用したデザイン制作 9. 演習⑤：LPデザイン制作 10. 修了制作：Webデザインコンペ制作 11. 特別授業：就職活動用ポートフォリオサイト制作			
授業の進め方			
1. はじめに基本的な機能を一通り学ぶ 2. バナーデザインの模写を繰り返すことで、デザインの基礎やツールの理解を深める 3. 画像生成AI（Firefly）を活用できるようになる 4. 自身の設定するコンセプトに沿ったバナーデザインやサイトデザインができるようになる			
成績評価方法および水準			
提出された課題を全て点数化し、出席などの平常点あわせて評価する。 ※内訳は、課題（80%）、平常点（20%）			
履修にあたっての留意点			
プロの作った「良いデザイン」を観察することで基本原則を意識し、模写を繰り返すことによりツールの使い方を習得する。 また、必ずコンセプト設定、ワイヤーフレーム作成をした上でデザインする習慣を身につけることで、デザインの本質を理解する。			
実務経験がある教員による授業科目			
姉妹校である熊本デザイン専門学校を卒業後、EC運営会社やデザイン事務所にてWebデザイン、グラフィックデザイン、インストラクターを経験。また、大手アパレル企業でのVMD担当経験あり。効果的な色遣いやレイアウトなど視覚的なアプローチを行うと同時に、Webサイトで使用するコンテンツの作成・加工技術を身に付ける。			

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	プログラミング基礎	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
JavaScriptの基本的な構文（変数、関数～条件分岐や繰り返しなど）やDOM操作、イベント処理などを学習する。同時に、プログラミングで不可欠な問題解決能力や論理的思考も養う。
具体的な達成目標
・ JavaScriptの基本的な構文や概念を理解する。 ・ DOM操作ができるようになる。 ・ 有名なライブラリやプラグインを利用できるようになる。 ・ 実例を見て、自分の技術（jQuery/プラグイン利用の有無は任意）や検索して再現できるようになる。 ・ 目標に向かって情報を整理し、必要な処理を論理的に考え 実装できるようになる。
授業計画
1. コーディングの概要とJavaScriptの実例 2. JavaScript/プログラミングとは 3. JavaScriptの準備 4. JavaScriptの基本（変数とデータ/数値計算/文字列/配列） 5. 条件分岐（if文/switch文） 6. 繰り返し（for文/while文） 7. 関数 8. オブジェクト（windowオブジェクト/DOM操作） 9. イベント 10. jQuery 11. APIの利用（Googlemap/YouTube） 12. Webデザインコンペ制作
授業の進め方
1. テキストをベースにJavaScriptを理解する。 2. 実装目標を設定し、実践による理解を深める。（Webデザインコンペやポートフォリオ制作に役立つ内容に焦点を当てる） 3. 自分自身で検索して問題を解決し、実装する力を身につける。
成績評価方法および水準
・ 成績の評価は平常点を20%、確認テストを30%、提出物及び課題を50%として評価する。 ・ 平常点：出席状況及び授業へ取り組む姿勢。 ・ 確認テスト：修了した内容についての知識試験。 ・ 提出物及び課題：提出期限の厳守。
履修にあたっての留意点
・ 必要に応じてHTMLやCSS、CSSアニメーションについても触れる。 ・ 提出物は期限厳守。
実務経験がある教員による授業科目
Web制作会社にてフロントエンドエンジニアとして勤務後独立。Pug/Sassを用いたデザインの再現から、JavaScriptを用いたインタラクティブな要素や演出の実装、CMSの構築までウェブサイトの開発・実装全般を行う講師が、経験を活かした実践的なWebプログラミングの授業を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	イラストレーション	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
イラストは情報をより早く、より正確に伝えるためのコミュニケーションツールである。 ビジネスの場で役立つ、情報やアイデアを描いて伝える力、表現力を身につける。
具体的な達成目標
・イラストを描くことの苦手意識をなくす。 ・相手に伝わるイラストを描くことができる。 ・Webサイトなどのデザインに使用するためのイラストや文字デザインができる。 ・自身のアイデアをイラストで表現することができる。
授業計画
1. イラストの定義と活用法 2. イラスト伝言ゲーム（早く描いて早く伝える） 3. 伝わるイラストの描き方（人、表情、行動） 4. 資料の挿絵 5. 新商品アイデア 6. イラストを使った作字（漢字、アルファベット、英単語） 7. シンボルマーク、ロゴマーク 8. 擬人化キャラクターデザイン 9. LINEスタンプ案（擬人化キャラクター）
授業の進め方
1. 身の回りのものをイラストで描きながら理解を深める。 2. より早く、より伝わりやすく描くトレーニングをゲーム形式で行う。（苦手意識の軽減） 3. 資料作成を題材に、イラストにする情報・する必要がない情報を見極める。 4. 音やイメージなど見えないものを描いて表現することで、デザインの幅を広げる。 5. 応用編として、キャラクターデザインやLINEスタンプ作成（アイデア出し）を体験する。
成績評価方法および水準
提出された課題やクロッキーを全て点数化し、出席などの平常点をあわせて評価する。 ※内訳は、課題（80%）、平常点（20%）
履修にあたっての留意点
イラストとして表現するには、対象についての知識が必要。そのため、日頃から興味・関心をもって対象を観察することを心掛ける。
実務経験がある教員による授業科目

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	色彩科学	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業方法	講義		

科目の内容
色彩の基本知識からWEBページの配色、企画書作成の為の配色などの色彩スキルを重点的に学ぶ。また、応用としては、色を与える心理的効果を活用した配色、目の不自由な方でも閲覧できる色使いなど色彩のユニバーサルデザインについても学ぶ。
具体的な達成目標
WEB制作などの商業デザインにおいて、好き嫌いで色を選ぶのではなく、制作内容や目的によって色を使いこなせるようになること。
授業計画
① 色彩の基礎 ② PCCS ③ 色彩の働き ④ 色のイメージ ⑤ 配色のイメージ ⑥ 色彩調和 ⑦ 色の機能性 ⑧ 光と色の関係 「色彩検定3級対策」も含む授業進行予定
授業の進め方
色彩検定公式テキストを中心に、過去問題を解きながら検定合格ラインまで理解度を深めていく。
成績評価方法および水準
定期試験 60% 平常点 40%
履修にあたっての留意点
実務経験がある教員による授業科目
住宅、店舗のインテリアデザイン、コーディネート、店舗ディスプレイ、視覚障害対応地図作成やパーソナルカラー、スタイリングなどイメージコンサルタントとしても経験を重ね、様々な角度から現場で活かせるカラープランニングの授業を進める。

学科	ITビジネス科				コース	共通			
科目名	通販リテラシー				年度	令和8年度(2026年度)			
学年	1年				開設期間	通年			
必修・選択	必須				単位数	2単位			
授業方法	講義								

科目の内容
デジタル技術を駆使して顧客と直接つながり、新しい価値を創造する「D2C（Direct to Consumer）」ビジネスの本質を学ぶ。単なる「売り方」ではなく、ブランドの世界観（ブランディング）、顧客体験（CX）、データに基づいた意思決定（KPI管理）ができる次世代のクリエイティブ・ビジネス人材を育成する。
具体的な達成目標
・ D2Cと従来通販の違いを説明できる ・ 顧客視点で商品価値を設計できる ・ 通販ビジネス全体の流れを理解できる ・ 顧客データ活用の基本を理解できる ・ 顧客体験（CX）を意識した施策を考えられる
授業計画
4月～ 1章 第1章 D2Cとは何か 2章 第2章 D2Cというビジネスの仕組み 7月～ 前期試験対策 9月～ 3章 D2C進化のための3つのD：Direct（ダイレクト） 4章 D2C進化のための3つのD：Digital（デジタル） 12月 後期試験対策 1月・2月 第5章 D2Cを象徴する3つのD：Data（データ）
授業の進め方
① 教科書に沿って、D2Cビジネスの基本概念、仕組み、用語について理解を深める。 ② 各章ごとに、実際の通販・EC事例を用い、理論と実務の関連性を理解する。 ③ 章単位で確認課題または小テストを実施し、理解度を確認する。 ④ 期末試験を実施し、知識および応用力の到達度を評価する。
成績評価方法および水準
定期試験（60％）、実践課題（30％）、出席状況（10％）により評価
履修にあたっての留意点
実務経験がある教員による授業科目
Web制作会社に10年以上勤務し、ネットショップ制作だけでなく、マーケティング・商品開発・受注・顧客のサポート等を行う。その後起業し、ネットショップの運営及び商品の販売を開始する。この経験を活かし、ネットショップの開業から運営のための知識と技能を身に付けるための授業を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	オフィスアプリケーション	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
現在のビジネス社会では、パソコンの操作、特にMicrosoft Excel・Wordの技術は必要不可欠なものとなっている。 この科目では、Wordの基本操作の習得、および、Excelで基礎的な表計算処理の技術を習得する。
具体的な達成目標
この科目を終了すると、受講生は次の作業、活用ができるようになる (Word) ① 文章の入力や編集、表の作成、図の挿入、図形描画ができる ② ビジネス文書の様式を理解し、作成できる (Excel) ① データ入力、ワークシートの編集、書式設定ができる ② 計算式、グラフ、関数を設定し、高度な作表ができる ③ データベース機能を使用し、的確なデータ分析や効果的な資料の作成ができる 目標検定 日本語ワープロ技能標準試験 2 級 表計算技能標準試験 2 級
授業計画
Word ① 文字、記号、漢字変換、文章入力 ② ビジネス文書の作成 ③ クリップアート・図形描画機能 ④ 他アプリとの連携 ⑤ 日本語ワープロ技能標準試験 2 級 検定対策 Excel ① データ入力・ワークシート編集、書式設定、 ② 計算式入力・グラフ作成 ③ 関数を使用した計算式 ④ データベース機能を使用した表の操作 ⑤ 表計算技能標準試験 2 級 検定対策
授業の進め方
① 実習にてテーマの機能ごとに、操作技能を高める ② 実習課題を実践し、機能の理解を深める ③ 検定試験受験とその対策により、習得した知識・技術の確認を行う
成績評価方法および水準
定期試験の成績および、実習における課題の成果で、最終成績を評価する。 定期試験の結果が60点に達した者を合格とし、出席点・実習課題の提出成果点を合わせて20点までの範囲で加算したものを評価対象とする。 定期試験の結果が60点に達しない場合は再試験を行い、60点に達した者を合格とする。 再試験の結果が60点に達しない場合は、再試験の結果に出席点・実習課題の提出成果点を合わせて20点までの範囲で加算したものを最終成績とする。
履修にあたっての留意点
常に現在の実習課題の目的を理解・確認しながら実習にのぞむことが大切である。
実務経験がある教員による授業科目

学科	I T ビジネス科	コース	共通
科目名	ビジネスマナー	年度	令和8年度(2026年度)
学年	1 年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		
科目の内容			
社会に必要な「マナー」を日ごろから意識し、実践できることをねらいとする。主に「就職活動に必要なマナーの習得」と「社会人として求められる人柄」を目標とした考え方やスキルを学ぶ。また、ビジネスマナーに欠かせないコミュニケーション能力の向上も目指す。			
具体的な達成目標			
① 約束を守る(提出期限や宿題など) ② 電ビ生という環境の中でのマナーを最後まで継続できる ③ 就職活動に必要な入退出や立ち居振る舞いを身につける ④ ビジネスマンや社会人として知って得する基本的マナーの習得 ⑤ 就職活動に必要な一連のマナーの習得 ⑥「就職試験前後」に必要なもの(こと)・確認作業の必要性が理解できる ⑦ 面接試験や企業訪問に行くときに気をつけるべきマナーのポイントが理解できる ⑧ 発表をする時の一連の動作・マナーを身に付ける			
授業計画			
1. 電ビ生としてのマナー(これから2年間の授業開始・終了時のあいさつ、教務室での入退出のマナーなど) 2. 自己紹介ができる(1分程度)・・・体感時間を把握する(時計を頼らずに、1分間は自分にとってどれくらいの感覚か体感する) 3. 働く意味を考える(なぜ働くのか？ 学生生活と社会人の違いの理解) 4. 報告・連絡・相談・・・グループで要点を押さえ、実際にやってみる 5. 社会人スキル (基本動作)挨拶・返事・身だしなみ・姿勢・言葉遣い・電話対応など 6. コミュニケーションスキル(伝える技術・聴く技術)・・・いくつかの事例に対してクラス全体で演習 7. 就職活動でのメールやSNSの有効な活用方法のマナー 8. 第一印象の大切さ(社会人の立ち居振る舞い)・・・スーツ着用 9. 社会人・ビジネスマンに必要なマナー(間接紹介、席順・乗り物、冠婚葬祭、贈り物、など) 10. お付き合いのマナー(ビジネス編・日常編) 11. 就職活動をする時のマナーⅠ(電話・訪問のマナー・会社説明会でのマナーなど) 12. 就職活動をする時のマナーⅡ(送付状、面接終了後のお礼状の書き方など) 13.「面接試験前後」に必要なもの(こと)・確認作業の必要性 14. 面接試験時のマナー(待合室でのマナー・入退室のマナー) 15. プレゼンテーション実施上の一連のマナー 16. 1年間学んでみて「ITビジネス科」とは何を学ぶ学科なのか、考えてみる ※ これらの内容は、授業の進行状況などにより適宜変更する場合があります。			
授業の進め方			
1. グループであいさつ・その挨拶に対して、相手に伝わる返事のしかたを考える(聞こえないフリをしたり、ボソボソと返事をしないなど) 2. その日の授業の目標・理解 3. グループワークの時は積極的に参加(傍観者にならない)し、周りに迷惑・不快感を与えない。 4. 授業に対しての自己評価(フィードバック)			
成績評価方法および水準			
平 常 点・・・40点(授業態度・学習意欲・個人の最終的な成長度合い・出席率) 定期試験・・・60点(前期)筆記試験、提出物での評価 (後期)筆記試験、提出物での評価 ※ 個人の努力も重視する。			
履修にあたっての留意点			
・最初から完璧にできる人はいません。自信がないと不安に思わずに、この授業に参加してみてください。 ・「社会人」としてここにいるという意識付けをしっかりとって授業に参加してください。 ・この時間は、『できないことができるようになる努力すること』が目標ですので、積極的に授業に参加してください。 ・以上のことから、個人の成長度合いや努力も重視しますので、一回一回を大切に、参加して下さい。			
実務経験がある教員による授業科目			

学科	総合ビジネス科	コース	共通
科目名	社会人基礎（NIE）	年度	令和8年度（2026年度）

学年	1年	開設期間	前期
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業方法	演習		

科目の内容
この科目では、情報化社会を生き抜くのに不可欠な情報を「読む力」、それについて「考える力」、それを他人に「伝える力」（まとめて「情報リテラシー」）を身に付けてもらうことを目指す。そのために新聞がどう役立つかや、新聞など他のメディアと比較しながらインターネット（SNS）に接する際の心構えなどを学ぶ。また、熊本県内で起きているさまざまな出来事を知ってもらい、社会の動きへの関心を高めることにつなげる。
具体的な達成目標
①社会に関心を持ち、記事スクラップなどを継続することで、読解力や相手に伝える力の向上を実感できる。 ②自分が伝えたいことを口頭で発表したり、文章にまとめたりできる。
授業計画
1. オリエンテーション（新聞の読み方、スクラップ方法） 2. 新聞の作り方 3. 新聞記事の要約 4. 記事作成体験 5. 4大メディアとインターネットの比較 6. SNSの特徴 7. SNSのトラブル回避 8. 熊本県内で起きている出来事について 9. 熊本県内での出来事についてディベート（相手の考えを聞き理解を深める） 10. 熊本県内の出来事について、各自の意見や問題解決策の発表
授業の進め方
① トピック&ウォーミングアップ ② 本日のテーマ ③ 発表・フィードバック ④ まとめ、次回への考察
成績評価方法および水準
・平常点 40点 （出席率・授業態度・スクラップ・課題提出） ・定期試験 60点 （プレゼンテーション・筆記試験）
履修にあたっての留意点
・スクラップを通して社会に関心を持ち、自らの将来を考える契機とできるよう積極的に取り組む。 ・「恥をかくこと」を恐れず、人まねでない自らの考えを堂々と発表する。 ・他者を <u>受け入れるために、「話をよく聞く、理解しようとする、関わろうとする」姿勢を持つ。</u>
実務経験がある教員による授業科目

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	表現技法	年度	令和8年度(2026年度)
学年	1 学年	開設期間	後期
必修・選択	必修	単位数	1単位
授業方法	演習		
科目の内容			
就職活動において不可欠である履歴書の書式の習得及び限られたスペース・文字数の中で、最も伝えたいことを表現することを目的とする。 また履歴書を作成することで就職への意識を高める。			
具体的な達成目標			
集団模擬面接・個人模擬面接までに就職活動本番の基礎となる履歴書の作成。 あらゆる職種・業種においても通用するような内容。 職種・業種の決定。			
授業計画			
・項目ごとにテーマに沿った内容を自由に表現させ、添削 同時に目的、留意点を説明 ① 得意な科目 ② 自覚している性格 ③ 部活動などで学んだこと ④ アピールポイント ⑤ 志望動機 ・履歴書全体における留意点の説明 ・清書			
授業の進め方			
・敬語・尊敬語・謙譲語の使い分け、正しい漢字の指導。 ・部活動やボランティア活動の経験がない生徒は書くことに苦労しているので、会話をすることでヒントとなるトピックを引き出す。			
成績評価方法および水準			
テストは行わず、日頃の取り組む姿勢や出席率、提出期限の厳守を重視する。			
履修にあたっての留意点			
なし			
実務経験がある教員による授業科目			

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	一般教養	年度	令和8年度(2026年度)

学年	1年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	講義		

科目の内容
この科目では、就職活動及び試験に備えた対策として、一般教養（SPIの非言語、言語問題、時事問題等）の基礎を学習する。就職活動ガイドブックを活用したワークを行い、自己分析を行った上で業界、企業研究について学習する。また、履歴書、エントリーシートや面接対策なども実施し、自信を持って就職活動を行う力を身につける。
具体的な達成目標
この科目を修了すると、受講生は次の就職活動に向けた準備ができるようになる。 ①SPIの非言語、言語問題等の学習に日頃から取り組み、学習を習慣化できる。 ②自己分析を実施し、自分の長所、短所を自分の言葉で相手に解り易く伝えることができる。 ③自ら積極的に企業研究や企業訪問を実施することができる。 ④履歴書やエントリーシートなどを作成することができる。 ⑤就職面接で自信を持った受け答えができる。
授業計画
1. SPI非言語（損益算） 2. SPI非言語（分割払い） 3. SPI非言語（速さ） 4. SPI非言語（表の読み取り） 5. SPI非言語（推論） 6. SPI非言語（確率） 7. SPI非言語（割合） 8. SPI言語（二語関係） 9. SPI言語（長文読解など） 10. 就活関連（自己分析、自己理解） 11. 就活関連（キャリアプランを考える） 12. 就活関連（求人情報の収集方法、時事問題など） 13. 就活関連（面接対策）
授業の進め方
①座学を主として、SPIの非言語、言語問題の基本的な問題を理解する。 ②SPIの確認テストにより、理解度の確認を行う。 ③就活準備として、ワークシートを活用し自己分析、自己理解を深める。また求人情報の収集方法などを紹介する。 ④就職試験対策として、業界研究、職種理解、面接練習などを行い、実践力の習熟度の確認を行う。
成績評価方法および水準
・成績の評価は平常点を40%、定期試験を60%として評価する。 ・平常点は出席状況及び授業への取組みを反映する。 ・定期試験は、SPIの非言語、言語問題、作文、一般教養等。
履修にあたっての留意点
教科書(SPI基礎からはじめる問題集、就職内定マスターテキスト) 赤鉛筆又は赤ペンは、毎時間用意する。
実務経験がある教員による授業科目

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	Web制作Ⅱ	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	8単位
授業方法	演習		

科目の内容
目標を達成するために最適なデザインを考え、コーディングやページの量産を行うことで、Webサイト制作の一連の流れを体験する。また、検索エンジン対策、スクリプトを使用した演出などWeb制作現場に必要な技術についても学習する。また、グループワークでは複数人で協力することを体験する。
具体的な達成目標
・Web制作に関する一連の流れを身に付ける ・見る人のことを考えた企画書の制作を心がける ・チームで協力して制作することを学ぶ ・検索エンジン対策の基礎を身に付ける ・CSSやスクリプトを使用した演出などの制作
授業計画
1. グループワーク：コンセプト 2. グループワーク：デザイン 3. グループワーク：コーディング 4. 検索エンジン対策とは 5. 検索エンジン対策を意識したサイト制作 6. 検索エンジン対策の実践 7. TechWebTips（CSSやJavaScriptなどを使ったサイトの演出） 8. ブライダル制作 企画 9. ブライダル制作 デザイン 10. ブライダル制作 制作 11. Webデザインコンペ制作 【前期】 4月～7月 グループワーク、検索エンジン対策、TechWebTipsを並行して進める。 ※4月は検索エンジン対策、TechWebTipsを先行して進める。 【後期】 9月～11月 ブライダル制作、検索エンジン対策、TechWebTips 12月～2月 Webデザインコンペ作品制作
授業の進め方
・グループワーク（3名程度でグループを作りサイトを制作する） ・検索エンジン対策（前期は情報収集しつつ検索結果に表示されることを目指し、後期は検索結果の順位を競う） ・TechWebTips（JavaScriptやCSSを使った様々な演出を可能な限り自分でコードを書く） ・ブライダル制作（1人でコンセプトやデザインを考えページを制作する） ・Webデザインコンペ制作（クライアントの話からコンセプトを考えデザインから実制作まで1人で行う）
成績評価方法および水準
提出された課題（作品）を点数化し評価する。 ※場合により出席状況などを1割程度加味する場合もある。
履修にあたっての留意点
実務経験がある教員による授業科目
1995年よりいち早くWeb制作を始め、本校Webサイトの制作・運営を20年ほど行っている。その経験を活かしWebサイトの企画からデザイン・コーディング、ページの量産、その後の運営、CMS化など実務に近い授業を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	CMSサイト構築	年度	令和8年度(2026年度)
学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	5単位
授業方法	演習		
科目の内容			
現在のWeb制作には欠かすことのできないCMSについて、シェアの多いWordPressを題材に学んでいく。			
具体的な達成目標			
WordPressセットアップから記事作成やカテゴリ作成などをマスターし、ブログやコーポレートサイトなどのオリジナルテーマを制作できるようになることが最終目標。			
授業計画			
1. CMSの基礎知識やシステム要件 2. インストールと初期設定、記事の投稿、テーマの切り替え 3. オリジナルテーマ制作について、制作手順 4. index.php を作成する 5. ループ、テンプレート階層、head要素、画像のパス、スタイルの適用 6. ページや記事の区別、投稿日時、記事のカテゴリ、改ページ処理 7. サイドバーのカスタマイズ、アイキャッチ画像、「続きを読む」のカスタマイズ 8. wp_head() とwp_footer()、パーツの部品化 9. category.php を作成する 10. head要素の編集、カテゴリ名の表示 11. single.php を作成する 12. head要素内の編集、タグの出力 13. オリジナルブログテーマの制作 14. コーポレートサイトまたはECサイトの構築			
授業の進め方			
1. 授業用のブログを全員同じペースでテーマ化する 2. 自分で制作したブログのデザインをWordPressテーマ化する 3. コーポレートサイトまたはECサイトの構築にチャレンジする			
成績評価方法および水準			
提出された課題（作品）を点数化し評価する。 ※場合により出席状況などを1割程度加味する場合もある。			
履修にあたっての留意点			
実務経験がある教員による授業科目			
1995年よりいち早くWeb制作を始め、本校Webサイトの制作・運営を20年ほど行っている。その経験を活かしCMSによるサイト構築の授業を行う。			

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	DTP	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
印刷業界などで広く使われるIllustratorの操作を習得し、 DTP制作物の作成方法とその活用方法を学習する。
具体的な達成目標
この科目では、「印刷物を表現したいイメージ通りに印刷するため」に必要なデータ作成技術習得を目指す。 ・Illustratorの操作の習得 ・POPやチラシ等の制作 ・就職活動用のポートフォリオの制作
授業計画
1. illustratorの基本操作と設定の理解 2. 名刺の制作 ・ドキュメント設定 ・文字ツールでの文字入力 ・カラーの反映 3. オブジェクトの描画・作成 4. チラシ、ポスターの制作 ・オブジェクトにカラー、パターン、グラデーションの適用 ・オブジェクトの複製、整列 ・線の線幅、形状、カラーの編集 ・写真、画像の配置、加工 ・紙面上においての文字の配置、バランス調整 5. ポートフォリオの制作
授業の進め方
①実習課題をadobe illustratorを用いて実践する。 ②授業進行に応じて、課題を設定し、技能習得確認を行う。
成績評価方法および水準
・定期試験は行わず、提出課題により評価。 ・成績評価は、平常点を30%、課題提出を70%として評価する。 ・平常点は、出席状況、平常の学習状況とする。 ・課題提出は、各制作物の目標達成度を10段階評価の上合算。
履修にあたっての留意点
Illustratorのマスターを目的とするのではなく、ツールの一つとして自身が表現したいことや意図する印刷物を作れるようになることを目的とする。
実務経験がある教員による授業科目
企業のインハウスデザイナーとして、製品デザイン、カタログ制作や広報におけるグラフィック制作経験を持つ講師が実務経験を元にIllustratorの解説、演習を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	マーケティング	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容	
①Webサイトの制作(デザイン/コーディング)に取り掛かる前段で必須となるマーケティングの理解を深める ②アウトプットを中心にした演習で、得た知識を活用する「実践力」を培う ③ロジカルシンキング、コミュニケーション能力を醸成することで社会に出てから有用な人材育成に取り組む	
具体的な達成目標	
①-1 マーケティングの4P(Product/Place/Price/Promotion)を理解し、ケーススタディでアウトプットする ①-2 消費者行動モデルや、分析手法を理解し、自社や自社を取り巻く環境をマクロ視点で分析する力を養う ①-3 実際の企業の課題に対するソリューションを提案する力をつける ②-1 グループワークを中心に行い、チーム内での役割分担や意思表示、コンセンサスへ導くアプローチを学ぶ ②-2 演習ごとにプレゼンテーションを行い、人前で説明する能力を高める ③-1 ディスカッション、グループワークを行うことで論理的思考力と協調性を身に付ける ③-2 時間内での合意形成や作業完了など、社会人として当たり前の「時間」「締切」を意識づける	
授業計画	
(1) マーケティング概論 (2) 4 P … Product Price Place Promotion (3) 消費者行動モデル (4) S T P 分析 (5) ペルソナ (6) S W O T 分析 (7) 3 C 分析 (8) マーケティングリサーチ (9) アクセス解析 (10) ファンマーケティング (11) インサイト開発 (12) 実践ケーススタディ ※プレゼンテーション形式で行う回に関しては、補佐として社員を演習に参加させることがある。	
授業の進め方	
●プレゼンテーション形式で基礎講義(マーケティング用語の解説)を行う。 重要だと思うことは適宜、「マインドマップシート」に記入していく ●基礎講義後に、グループまたは個人でのワークショップを行い、実践演習としてプレゼンテーションを行う。 グループワークの場合、プレゼンター(発表者)以外もグループの意見(アイデア)を「ワークシート」に記載する	
成績評価方法および水準	
①上記「マインドマップシート」及び「ワークシート」を期末に提出し、内容で評価 ②ワークショップ及び課題等の提出物で評価 ③授業態度(出席状況、発表回数、質問をするなど積極的な姿勢)で評価	
履修にあたっての留意点	
・定期テストは実施しない ・毎回の演習を受講する際は、楽しみながら学ぶことを心がける	
実務経験がある教員による授業科目	
広告代理店で5年間、コンサルティング会社で5年間の勤務後、現在はマーケティング会社を経営している。 延べ300社以上との取引実績があり、実際のクライアントのマーケティング事例を用いて実践的な講義を行う	

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	コピーライティング	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
文章を書くのが苦手な学生にとって、まずは書くことへの抵抗感を少しでもなくすることが本科目の狙い。前期は商業的に通じる文章力を、後期は広告制作時に役立つ「キャッチコピー」「リードコピー」「ボディコピー」の繋がりを考えながら繰り返し練習を行う。
具体的な達成目標
Webサイトや紙の制作物において「クライアントの要望にこたえつつ、読む人に正確でわかりやすく伝わる」表現を意識し、自分の言葉で文章が書けるようになることが目標。
授業計画
1. 私的文章と商業的な文章についての概念 2. 自分PRの執筆 3. 「読者」を意識した文章の制作（商品紹介編） 4. 「読者」を意識した文章の制作（店紹介編） 5. 商業的ブログやSNSでの文章の書き方 6. 広告コピーの概念 7. 有名コピーから「広告コピーのアプローチ」を研究 8. キャッチコピー・ボディコピーの作り方 9. 宣伝会議賞への課題応募 10. インタビュー記事の概念 11. インタビュー記事のやり方・まとめ方の実践
授業の進め方
1）座学を主とし、毎回課題を与えて、実際に「物を書くこと」を体験してもらう。 2）自身の文章を講師が添削し、元原稿と添削後の違いを理解。 3）クラスですべての文章を共有し、自分と他人の文章の書き方の違いや特徴を理解する。 4）後期は『宣伝会議賞』に広告コピーを全員で応募し、スキルを競う。 5）インタビューでは、「コミュニケーション力」「洞察力」「理解力」を身につけ、簡潔に特徴のある文章をまとめる技術を身につける。
成績評価方法および水準
・成績の評価は平常点を30%とし、毎回の課題を30%、定期課題（試験時期に合わせた総合的な課題）40%として評価する。
履修にあたっての留意点
座学で知り得た知識を、課題でどれだけ反映させることができるかを重要視します。
実務経験がある教員による授業科目
熊本・東京の出版社に勤務後、フリーランスで活動。全国紙の雑誌や書籍、WEBメディアの編集・執筆、広告コピーや企業パンフレット、大学の冊子の編集・執筆に携わる。媒体記事や広告コピーの制作経験を活かし、WEB制作におけるテキストへの理解を深めるための授業を行う。

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	プレゼンテーション演習	年度	令和8年度(2026年度)
学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		
科目の内容			
情報化社会においてますます重視されているプレゼンテーション能力。これに対応するために、代表的なプレゼンテーションツールであるマイクロソフト社「PowerPoint」をはじめ、Googleが提供するウェブベースのプレゼンテーションプログラム「Googleスライド」を使用して、プレゼンテーション能力の向上を図る。			
具体的な達成目標			
・PowerPointおよびGoogleスライドの基本操作、機能を習得する ・スライドマスタを用いてオリジナルのデザインテーマを作成できる ・聞き手を動かすプレゼンテーションができる			
授業計画			
1．PowerPointを使用した企画書作成 2．プレゼンテーションの本質の理解 3．プレゼンテーションの型と内容の設計 4．PowerPointを使用したスライド作成 5．プレゼンテーションの実践 6．スライドマスタでのデザインテーマ作成 7．Googleスライドの基本操作と実践 8．応用編：PowerPointを使用したフライヤーデザイン ※5以降、スライド作成 ⇒ プレゼンテーション ⇒ 評価（振り返り） を繰り返す			
授業の進め方			
・テキストに沿って、PowerPointの操作、機能を理解し、習得する。 ・PowerPointの操作をベースにGoogleスライドの操作、機能を理解し、習得する。 ・発表者以外のクラスメイトが評価シートをつけることで、客観的に評価する視点を養う。 ・プレゼンテーションの実践、評価を繰り返すことにより、プレゼンテーション技術の向上を目指す。			
成績評価方法および水準			
提出された資料や発表を全て点数化し、出席などの平常点あわせて評価する。 ※内訳は、資料作成・発表（80％）、平常点（20％）			
履修にあたっての留意点			
事前準備はプレゼンテーションの質を左右する。実践練習を繰り返すことで確固たる自信をつけるよう努めること。また、他者のプレゼンテーションからも学び、吸収すること。			
実務経験がある教員による授業科目			

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	IT実務	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	5単位
授業方法	演習		

科目の内容
①Webサイト制作後の運用を踏まえた知識を身に付ける ②仮説⇒実行⇒検証⇒改善のPDCAサイクルを念頭に置いた業務遂行ができる論理的思考力を身に付ける ③クラウドサービスやソーシャルネットワークサービスを活用した業務の基礎を学ぶ
具体的な達成目標
①-1 Webサイトの制作後に行う運用に関して、具体的手法が理解できるようになる ①-2 SNSを中心とした情報発信に関する手法が身に付く ②-1 施策の目的やターゲット設定、効果検証などPDCAサイクルを理解できるようになる ②-2 効果検証を行い、改善策の立案に関する経験値を得ることができる ③-1 クラウドサービスを活用したデータの受け渡しなどITビジネスを行う上での最低限のリテラシーを保持する ③-2 協力企業に対し企画提案からLINEスタンプの制作に取り組むことでビジネスの基本的な流れを学ぶ
授業計画
(1) オリエンテーション (2) クラウドサービスの利用に関して (3) Word、Excel、PowerPointの活用 (4) SNS特性/プロモーション利用 (5) Facebook投稿演習 (6) Instagram投稿演習 (7) Twitter投稿演習 (8) SNSプロモーション実践Ⅰ (9) LINEスタンプ制作 (10) SNSプロモーション実践Ⅱ (11) クライアントワークⅠ (12) クライアントワークⅡ ※プレゼンテーション形式で行う回には、補佐として社員を演習に参加させることがある。
授業の進め方
●プレゼン形式で基礎講義(マーケティング用語の解説)を行う。ノートは「マインドマップシート」に記入する。 ●基礎講義後に、グループまたは個人でのワークショップを行い、実践演習としてプレゼンテーションを行う。 グループワークの場合、プレゼンター(発表者)以外もグループの意見(アイデア)を「ワークシート」に記載し、プレゼン資料はクラウド上に提出する。 ●各SNSの特性を理解した上で課題に則したメディア選定やプロモーション方法を学び、演習での実体験を行う
成績評価方法および水準
●課題ごとの投稿演習や、報告書提出、プレゼンテーションを点数化し、評価する。 評価基準は、以下の通り ・期限内に間に合うこと ・報告書の論理的整合性 ・プレゼンテーションの分かりやすさ ・チームワーク
履修にあたっての留意点
・定期テストは実施しない ・可能な限り、現場の実践に近い課題を与えていくため、協力会社への言動には注意すること ・グループワークの際は、協力して課題に取り組む事
実務経験がある教員による授業科目
広告代理店で5年間、コンサルティング会社で5年間の勤務後、現在はマーケティング会社を経営している。 延べ300社以上との取引実績があり、30社以上の企業のWebサイト運用の経験を持つ。 クラウドやSNS活用と効果検証、提案書や結果報告書作成などより実際のビジネスに近い授業を行う

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	ビジネス実務	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必修	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
①社会人となることへの自覚と心構えを持つ。 ②1年次で学んだビジネスマナーの基本（言葉遣い、電話応対、メール、名刺交換等）を知っているから出来るにするためにケーススタディで実践しながら身につける。 ③報告や相談の仕方、慶弔のマナーなどの社会人として働く上で必要なマナーや知識を身につける
具体的な達成目標
この科目を修了すると、受講生は次のビジネスシーンでの対応ができるようになる。 ①社会人として働く意義を理解し、心構えができる。 ②仕事での指示の受け方や報告・連絡・相談の仕方を理解し実行できる。 ③社内や社外で、立場をわきま相手に思いやりのある正しい言葉遣いができる。 ④会社の事業内容を理解し、相手に会社の代表として好印象を与える電話応対が適切（取り次ぎや伝言処理）にできる。 ⑤来社されるお客様に対し笑顔で応対し接客（受付応対、ご案内、お茶出し）ができる。 ⑥社内や社外に出されるビジネス文書やメールについて基本的な書式を理解し作成することができる。 ⑦冠婚葬祭での振る舞いやマナーについて、基本的なことを理解し実行することが出来る。 ⑧様々なビジネスシーンでどのような対応をすればいいか、自分で判断し行動できる。
授業計画
1. 会社訪問・就活にむけてのマナー実践・・・ロールプレイング 2. 来客応対（受付応対・名刺交換・案内の仕方・お茶出し）・・・ロールプレイング 3. 社会人としての心構え（社会人と学生の違いについて考える） 4. 会社の仕組みと仕事の進め方 5. 敬語の使い方（1年基礎で学んだ言葉遣い実践）・・・ロールプレイング 6. 報告・連絡・相談の仕方・・・ロールプレイング 7. 冠婚葬祭について・・・（慶弔時のマナー、祝儀・不祝儀表書き等） 8. 食事と席次のマナー・・・マリーゴールドでの研修 9. 接客や宴席のマナー・・・状況を設定して 10. プレゼンテーションについて（卒業制作やコンペに向けて）・・・レクチャーと実践 11. その他のビジネスシーンでのマナー・・・状況を設定して実践
授業の進め方
①前回の授業の復習と確認 ②本日の授業の目的・目標を理解する ③レクチャー ④それぞれの実習内容をロールプレイング式で実践する ⑤本日の確認と振り返り ⑥「来客応対」などの場合は「定期試験」で知識の確認をする
成績評価方法および水準
前期/後期評価・・・定期試験（60％）＋提出物（10％）＋出席率（10％）＋平常点（服装や授業態度など）（20％）を総合し評価する。 ※定期試験は 実技及び筆記を行い、知識だけでなく、実際に身につけているかを確認し評価する。
履修にあたっての留意点
○服装について・・・男性：そのまま仕事に行ける格好（ズボン・シャツなど）であること。ジーンズ・クロックスやスリッパ、半ズボンは不可。女性・・・スカートにパンプス・ストッキング・シャツは合うものを。長い髪は束ねる。アクセサリはTP0に合ったものを（大きすぎず派手過ぎず）なお、服装の乱れは、平常点として評価の対象とする。
実務経験がある教員による授業科目

学科	ITビジネス科	コース	共通
科目名	キャリアビジョン	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	必須	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
科目の狙い 自己理解、職業理解からキャリアデザイン全体を理解すること。社会を捉えたコミュニケーションスキルをそれぞれのレベルでスキルアップすること
具体的な達成目標
卒業時点での就職率を100%に近づけること。自分なりのキャリアビジョンを考察し、成長できること。
授業計画
① キャリアデザインに必要な考え方、行動 ② キャリアデザインの理解 ③ 職業、働き方を考える
授業の進め方
自己理解を深め、社会を認識し、職業選択を考える。業種、業界研究を行い、目標設計を立てる。社会性に伴う具体的な準備、行動、トレーニングを進める。
成績評価方法および水準
学習意欲 20 企業研究 10 社会人に向けて考察 10 自己分析 20 内定 20 期末試験 20 の割合にて成績評価
履修にあたっての留意点
実務経験がある教員による授業科目

学科	ITビジネス科	コース	Webデザイナーコース
科目名	WebデザインⅡ	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容	
実践的なウェブ制作のスキルを視覚と思考両面で鍛えていきます。ソフトの使い方だけではなく制作におけるより現場に近い包括的な知識を身に着けることが目的	
具体的な達成目標	
・制作会社にとって戦力と認識される腕と思考と心を身につけること ・部分的ではなく総合的なウェブ制作能力を身につける	
授業計画	
1. ウェブ制作の実際（即戦力とは？） 2. デザインとは？デザインがうまくなる方法 3. リサーチ（競合、業界調査） 4. 色彩とウェブ制作 5. バナー制作 6. 編集とデザイン 7. ディレクションについて 8. ワイヤフレームの作り方 9. フォントを極める 10. リデザイン 11. UIについて 12. デザインと認知心理学 13. アイデア発想法を学ぶ 14. UXについて	
授業の進め方	
前期	基礎的な技術や知識や業界に対する認識や生徒のモチベーションが上がる内容を中心に構成
後期	より実践的な制作スキルの習得と深度のある知識習得
成績評価方法および水準	
定期試験(50%)、実践課題(40%)、出席状況(10%)により評価	
履修にあたっての留意点	
実務経験がある教員による授業科目	
広告代理店に5年勤務しWebデザイン、コーディング、ディレクションなど包括的な業務に従事、その後フリーのウェブデザイナーとして県内外のウェブサイト年間15サイト以上制作、その経験を活かし制作全体を意識したウェブデザインの授業を行う。	

学科	ITビジネス科	コース	Webdrデザイナーコース
科目名	Webプログラミング	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	選択	単位数	2単位
授業方法	演習		

科目の内容
・Webデザイナーとして働くために最低限必要な知識・技能を学習する。 ・PHPを用いることでできること/できないことを理解する。
具体的な達成目標
・CMS等で使用されているPHPの基礎を理解し、基本的な文法を習得する。 ・PHPを使用するに当たり必要なドキュメントの利用法を習得する。 ・各バージョンにおける機能の差異を理解し、案件に応じた処理の変更ができるようになる。
授業計画
1. JavaScriptを用いたプログラミングの基礎復習 2. PHPとは 3. サーバの基礎知識 4. PHPの記述方法 5. PHPの基礎と制御構文 (変数、基礎関数(if, for, while)、echo、オブジェクト) 6. オブジェクト指向とは 7. WordPressを絡めた実践的なPHP (WordPress独自関数、function. php作成)
授業の進め方
・書籍に記載されているサンプルコードを写経し、記述内容と実際の動作を照らし合わせ、機能を理解する。 ・php. netを閲覧し各機能の基本的な内容を理解する。 ・WordPressを使用する上での基本的な処理を理解する。
成績評価方法および水準
・前期は定期試験を60%、平常点（課題・出席率）を40%、後期は平常点（課題・出席率）のみで評価し、通年成績を算出する。 ・定期試験は、修了した内容についての知識試験を行う。
履修にあたっての留意点
プログラミングの基本を理解していること。
実務経験がある教員による授業科目
開発会社やWeb制作会社にてWebサイトのフロントエンド及びバックエンドのシステム開発経験を持ち、WordPressの開発にも関わっている講師が、その知識と経験を活かし、Webにおいて必要なPHPでの実践的な技術を身につけるための授業を行う

学科	ITビジネス科	コース	ネットショップコース
科目名	ネットショップ運営	年度	令和8年度(2026年度)

学年	2年	開設期間	通年
必修・選択	選択	単位数	5単位
授業方法	演習		

科目の内容	
この科目では、ネットショップを運営するスタッフとして働くために必要な知識と技術の学習を行う。また、CMSを活用しECサイト構築を体験する。ネットショップ運営に関わる受注業務・マーケティング業務・フォロー業務についても学習し、ネットショップ運営の全体像を学習する。	
具体的な達成目標	
・ECサイトを構築しする ・ページの追加や更新などECサイトを運営する ・レスポンス広告を意識したサイト作りを身に付ける ・検索エンジンを意識したページ作り ・メール対応など	
授業計画	
1. ECとは 2. ECに向いている商品、向かない商品 3. ECサイト企画前の市場調査 4. ECサイトの企画 5. ECサイト構築の際のコピーライティング 6. ECサイトのデザイン 7. ECサイトの基本ページのコーディング 8. ページの量産 9. WordPressによるECサイト構築 10. コンバージョンを上げるには 11. アクセス解析をサイト運営に活かす	
授業の進め方	
【前期】 4月～7月 ECサイトの企画と制作 【後期】 9月～12月 ページの量産、WordPressによるECサイト構築 1月～2月 Webデザインコンペ作品制作	
成績評価方法および水準	
提出された課題（作品）を点数化し評価する。 ※場合により出席状況などを1割程度加味する場合もある。	
履修にあたっての留意点	
実務経験がある教員による授業科目	
1995年よりいち早くWeb制作を始め、本校Webサイトの制作・運営を20年ほど行っている。その経験を活かしWebサイトの企画からデザイン・コーディング、ページの量産、その後の運営、CMS化など実務に近い授業を行う。	